

意見交換会実施報告書

令和4年9月14日

赤穂市議会議長 様

建設水道委員会委員長 西川 浩司

建設水道委員会は、下記により意見交換会を実施したので報告する。

記

開催日時	令和4年 8月26日(金) 13時30分～15時10分
開催場所	赤穂市役所6階 第2委員会室
意見交換会テーマ	商店街のにぎわいづくりの取組みについて
出席委員	代表者：西川浩司 家入時治 司会者：中谷行夫 前川弘文 記録者：荒木友貴 瓢 敏雄
相手方団体名 及び参加者数	赤穂にぎわいづくり商人会 5名
主な意見等	<p>●活動の概要</p> <p>今回、意見交換を行った「赤穂にぎわいづくり商人会」は、赤穂市中心市街地内の商店街等の健全なる発展を図り、スケールメリットを活かし、その振興と向上に努め、地区内のまちづくりに寄与すると共に、会員の経営の向上に資することを目的として、平成19年度に設立された。現在4商店街が加盟し、継続的に活動している。直近の活動では、継続事業として加里屋さんもく楽市を息継ぎ広場で開催する他、赤穂まちなかゼミナールを市民対象講座として開催している。単年度事業としては、商店街での販売促進に寄与する抽選会、ポイントシール事業、経営力向上のための商人塾や視察、セミナーを行っている。</p> <p>●意見・要望他</p> <p>※事前アンケートに基づき4項目について意見交換を行った。</p> <p>【空き店舗に関すること】</p> <p>① アートによる賑わいの創生として、既存のシャッターを持つ店舗や空き店舗を活用して「シャッターアートコンク</p>

ル」の実施を提案したい。アートを施す場所は5か所と資料にはあるが、3か所位が適当と考えている。プロ、学生にアーティストとして参加して頂きたい。対象に高校生を入れているのは、美大に行く実績としてコンクールの評価が重要だからだ。ある程度事前審査をすることを考えており、テーマは忠臣蔵とは離れた自由な発想が良いのではないかと構想している。インスタグラムで「いいね」を押してもらえるようにしたい。賞金を提供すると同時に、高校生にはコンクールでの入賞という権威を付与したい。2030問題を頭に入れた提案として、空き店舗対策については関心を持っている。仮にシャッターアートを施した店舗が売れたら作品を撤去するのかどうかについては、今後検討する。いくらぐらい商店街が儲かるようになるかという直接の算定は難しいが、人が来て商店街にもお金が落ちる工夫をしたい。

- ② 空き店舗の実数把握については、数年前に空き店舗の写真をアップしてほしいと行政側から依頼があり対応した。その当時から多少は変わっているが画像データは残っていると思う。調査当時、店舗を貸したい、販売したいといったニーズも聞き取りしている。補助金を得るために、空き店舗だという認定証拠にもなっていた。ただし、4つの商店街での細かい状況までは全体把握をしていない。
- ③ 4つの商店街の問題としては、廃業後住居や倉庫として店舗を使用しており、店舗部分だけ貸すこともないため、空いているが店舗として活用できないことである。
- ④ 商店街によっては金融機関が多いなど構成員の傾向が異なる。通りに沿った空き店舗は相当整理がついたが、建て替えが必要な店舗もある。空き店舗ごとに個別の事情があり、整理して区分けをしないと、対策が進まないのではないかと考えている。
- ⑤ 各商店街で休業・営業日を決定していない。かつては魚市場が休みの関係で、飲食店は水曜日が休みという傾向があった。また、火曜・木曜日を休業日にする店舗があったが、現在は木曜日でも人が動くため、土日を休業日にしている店舗もある。
- ⑥ 4つの商店街は協力して、昔から「歩いて楽しいまち」を目指してきたが、今は車で移動される方が多く、善意の駐車場に助けられている部分も多い。他地域の方や転入された市

民の方には、商店街の中のどこにどんな店舗があるか分りにくいというご意見もあると思う。

- ⑦ 商店街では何かを仕入れて売るといった流通だけのお店は成り立たない。専門的な知識をもつ店舗は今後も残るし、そういった店舗を商人会でも応援したい。利用者がスマホで検索する機会も多いので、SNS等で発信し魅力をアップしたい。
- ⑧ 現在の空き店舗問題は、後継者や維持費用の問題だが、空き店舗のままで置いておくのは「知らない人には貸したくない」という家主の意識がある。家主や地権者にはそのような考えの方がいる。廃業後店舗を貸さなくても生活には困らないこと、また税金対策として更地にしない人もいる。
- ⑨ シッターアートに関しては、赤穂近辺にもアーティストがおり、参加したい方はいるのではないかと考えている。独自性だけでなく、他市町を模倣し赤穂に合わせた形でできないかと考えている。自分たちが空き店舗、まちの把握をする所から始めようという意味もあり、シッターアートに取り組みたい。
- ⑩ 空き店舗に限らず、シッターを閉店後の夜しか閉めない店舗については閉店後に見てもらうためにライトアップすればよい。アートテーマは、忠臣蔵ではないものという話もあったが、忠臣蔵絵巻のテーマを取り入れてもいい。有名キャラクターを採用すれば聖地巡礼のような動きも考えられるが、持続可能なキャラクターを選定しないと何年か経ったら廃れることもあるので内容は考えたい。
- ⑪ 商店街の専門店には駐車場問題があり行きにくいという問題があるが、大型量販店でも駐車場から目的の商品まで「歩く」ことは一緒である。しかし、商店街においては善意の駐車場から個々の店舗へ歩くという考えがお客様に湧かないので、駐車場から各店舗まで誘導できる方法があれば提案して欲しい。
- ⑫ 以前行ったベンチアートについては、お城通り付近でベンチを活用したことがあり取り組みやすい。ただし、現在あるお城通りのベンチは暑いという難点がある。一方で設置当時は想像していなかったが、子どもたちがベンチで宿題をするという風景も見られ驚いている。
- ⑬ 助成金をもらうことで、商人会側からも提案をでき、また商

店街みんなで取り組むきっかけづくりになる。

【イベント・販促事業に関すること】

- ① 兵庫県のアドプト制度を利用し、以前はお城通りに花を植えたりしていたが、コロナ禍以降、顔を合わせて各店舗が作業することや、お手伝いをしてくれていた関西福祉大学の学生や精華園の方へのお願いができないため、この2～3年は全体では取り組めず自分の店舗前の花壇や気が付いた所は手入れしている。花壇の土の状態も元々悪く、肥料を入れて改良しているが、特に夏場の管理が大変で、暑さで草花がすぐに枯れてしまう。
- ② 今年度開催した土曜夜店に人が殺到し、非常に密になっていたり、警備にも費用が掛かっていた。コロナ禍が頭から離れない中、今回は無事に終わったが、感染の広がりがあれば責任問題や風評被害があった場合の対応も考えないといけない。国任せではなく、地方からの提案でこういう対策を取ればどうかと赤穂市から発信してはどうか。
- ③ デスティネーションキャンペーンや兵庫テロワール旅という言葉はあるが、提案されている坂越や御崎が加里屋とは関連性が薄いので、「赤穂テロワール」という言葉を使って何かできないかと考えている。
- ④ 令和2年度の「お買い物ポイント」は、78万8千円分の利用であった。3,940万円はこの金券チケットを貯めるために使った費用で、チケットを使った買い物分までは含めていない。4商店街全体事業で行った。事業によっては、商人会加盟店に限らず、商工会議所に加盟している店舗に紹介し参加している場合もある。
- ⑤ 令和4年度については、赤穂市が実施するプレミアム商品券に付帯する内容として、商店街独自のプレミアを追加できないか検討している。全体としては難しいので、個々のお店でプレミア内容を考える方向が現実的ではないかという意見もあるが、商人会でするか個々の店舗かはまだ最終案がまとまっていない。今年はシール事業をしたから、次年度はこのポイント制度に切り替えてしようと例年決めている訳ではない。
- ⑥ 有楽町に関しては商店街に加盟してもらえれば良いという提案もしたが、加盟したのは2店舗ぐらい。飲食店ばかりな

ので、業態が違い夜の会議に参加しにくい側面もあり、独自にグループを作ってもらった方が良いのではないかという意見もある。会費の集金や、日中の清掃作業に参加しにくいといった面もあり、同じ業種・業態でまちの活性化を考える方がよいのではないか。

- ⑦ ポイント制度も、業種・業態が違くと難しい面がある。飲食店では使えるが、卸売り業や医者や金融機関は同じ商店街内にあっても関係がなくなってしまう。各店舗が疲弊している部分もあり、従業員がいない個人商店ではオーナーが会議に出たりするとその間営業を止めないといけない困難もある。
- ⑧ 土曜夜店に関しては、感染症対策をしていたが、クラスターに関する追跡調査まではしていない。聞き取りもあったが、土曜夜店を境に爆発的に感染者が増えたとは聞いていない。イベントではないが、個人店舗は感染者や濃厚接触者が出てお店を閉めなければならない状態や風評被害が一番辛い。インフルエンザのように通常の病気として認めてもらわないと、何をするにしても足かせになっている。店主が感染していなくても、従業員が感染すれば店主は濃厚接触となり休業することになってしまう。

【施設・インフラ整備等のハード面に関すること】

- ① 道の駅については、中心市街地ではなく高速のある新田付近をと思っている。道の駅限定の何かがあると、足を運んでもらえる切っ掛けになると考えている。少しでも商店街の近くに建設されればとも思うが、土地確保の問題もあることは理解している。技術的なノウハウのある商店であれば出品できるが、関連が強いのは「農」、「JA」だと思う。プロに売れるのは「完熟トマト」ではなく「青いトマト」といった、売れる野菜を作るといった考えの転換は必要だと思う。商店街で出品を進めるというより、農が主体になることは間違いなく、道の駅から商店街にお客を誘導できればという考えだ。
- ② 活用できるインフラ施設としては、空き店舗のシャッターや、合同の駐車場を考えている。駐車場についても以前と需要が変わっており、時間借りで持てるようになれば意識が変わる。飲食店や美容院は利用時間が長く、月借りの方が良いが、ちょっとした買い物のお店では単価は高くても時間

借りの方が良いのではないか。利用者側の支払いについての抵抗感も変わってきており、まちの整備を考える時に、全体整備の一つとして駐車場に関しても考えてはどうか。

- ③ 近々の案では自転車の活用は面白いと思う。高取峠を越えなくても自転車を利用して市街地に来れるルートはある。自転車道路の整備も必要になっている。

【その他】

- ① 癒しロボットは1台30万円ぐらいで、各商店街で買える。ただし追加で月1万5千円ぐらい経費が掛かる。2030問題を考えるとお年寄りと、商店街全体で維持するのめどうかという提案だ。
- ② ウクライナの戦争以来の物流の問題では、食料自給率を上げないと商品自体が入ってこないという問題がある。国も含めて自給率を上げる取り組みを発信してほしい。
- ③ 海側の活用についても、エリアは違うが商店街の方も考えている。食のフェスティバルを計画中の店舗もあり、応援したいと考えている。子育てをしたいから赤穂に来たという新しい店舗もある。ただし、良質な魚が魚市場で手に入らないため取り寄せているという難点もあるそうだ。
- ④ 人口問題では赤穂に住むなら赤穂で子どもを産まないで損だというぐらいの提案をしてほしい。
- ⑤ 自転車で各地を回ろうとする人が増えているのか、状況を教えてほしい。佐用町から赤穂市というルートは、意外に楽かもしれないので、何かの形で協力するのも一つかもしれない。
- ⑥ シティマラソンのように、ママチャリやロードバイクを活用して、道路封鎖してできるイベントも面白い。昔はバイクも走れたが、敢えて復活させて海沿いルートの観光客誘致を再度図るのも良いかもしれない。今後交通の条件緩和を行っている他市町の事例・企画を見てみるといい。
- ⑦ 細野町に出店予定の大型店の影響については、商店街への影響というより大型店舗同士の影響と近隣住民の交通問題が大きいのではないか。商店街内には既に生鮮品や日用品店はないので、影響はゼロでは無いと思うが競合店の方が影響を受けるのではないか。

委員会からの
コメント

【空き店舗に関すること】

- ① 商工課に確認すると、現在の空き店舗の数の把握はできていないとの回答があったが、商店街で把握はできているのか。
- ② お客などの利用する側からすると、住居として継続するなど別の用途で使っていたとしても、シャッターが閉まりお店として機能していなかったり、営業日がはっきり分からなければ空き店舗と変わりがない。お城通りを歩いていて休業日が重なっていることについて気になるが、商店街として火曜日を休むなど営業日を決めていたりするのか。
- ③ 個人で商店街のお店に行くときは、善意の駐車場に停めたり、店舗の駐車場を利用するが、市内の方でも新しく引っ越してきた加里屋近辺に詳しく無い方には店舗が奥まっており分かりにくいのではないかと。赤穂市民の方は、お金を払ってまで駐車場に止めようという気持ちは無いのではないかと。
- ④ 商店街に買い物に来る人は、ある商品に特化してこれをこの店舗で購入したいから立ち寄るといった動機が必要になる。専門的な相談に乗って良い商品を紹介してもらえるとといった経験がある。大型量販店のように全てが揃うわけではないので、自分の物を購入した時に良かったから、次に家族のものも購入するように繋がる。まちなかゼミナールの工夫や接点はそういうものではないかと。
- ⑤ 現在の空き店舗問題は、空いていて貸したいけれど借り手がないという問題ではない気がする。家主の後継者がいなかったり、改築するには費用が足りないという問題だと商人会の方の話を伺い感じた。
- ⑥ シャッターアートコンクールは、テレビ番組であるような賑わいづくりではなく、もっと身近な所での募集をイメージしているのか。広島県でも同様の事例を見たことがある。アートができるような空き店舗があるのか。
- ⑦ 壁面アートだけでなく、鳥取県の妖怪アート・県内のベンチアートのように立体アートも考えてはどうか。各店舗前に飲食スペースとしてベンチや、またお城通りのベンチなど活用方法もある。サイクリストも増えてきているので、立ち寄りスポットとして商店街の中にサイクルスタンドがあると PR することも一つと考える。

【イベント・販促事業に関すること】

- ① 今年の土曜夜店は花岳寺通商店街の単独イベントだったが、3年ぶりですごい人出だったので、今後連携したイベントとして見直せないか。警察への許可が難しいことは分かるが、協力範囲を広げて取り組めないか。
- ② お城通りには松の木が植わっているが、季節の花々が無い。牡蠣シーズンには人出はあるが、6月から夏の時期は観光客が少ない。例えば6月はアジサイを咲かせるなど、お城通り全体をイベントと合わせて変えていくことで誘客に繋げることはできないか。
- ③ 花の植え替えは頻繁だと大変で、プランターごと入れ替えることも考えないといけない。加里屋川の整備が進み、以前のように清掃が不要になるので、そこに関わっていた人たちを今度はお城通りの清掃や植え替えの方に回ってもらえないか提案したい。
- ④ 兵庫のデスティネーションキャンペーン、テロワールは今年がプレで、JRや神姫バスなど複数の機関が商業、観光の分野で協力しないとイケない。パンフレットには坂越かき、赤穂温泉、赤穂スイーツしか載っていないが、加里屋にも波及できることを考えたい。
- ⑤ 「会いたい兵庫」が「テロワール」になった。そこに足を運ぶことで初めて体験できる味覚や嗅覚などにも焦点を当てている。商店街でいえば、ここでしか選べない赤穂産の商品の組み合わせを考えることもできる。全てを食に結びつけることは難しいが、「赤穂テロワール」という言葉は兵庫県も普及のため使ってほしいと思うのではないか。
- ⑥ 令和2年度にした「お買い物ポイント」は、使われたシールが7,880枚ということであった。10枚で1チケットに交換なので、78万8千円分お買い物を追加できたと考えれば良いのか。
- ⑦ 令和4年度の事業については、いつ頃事業内容を練られているのか。既に今年度は考えているのか。
- ⑧ 店舗数、会員数の減少の問題では、「田町」や「有楽町」はどこかの商店街に入っているのか。
- ⑨ 土曜夜店では、クラスター対策をしていたのか。今後は余程長時間店舗で過ごさなければ、感染把握も実情に即してしていけば良いと考えるがどうか。風評被害についても大

分無くなっており、夜の営業の店でも10日間感染があり店を休む、再開するといった告知も堂々とするようになってきている。

【施設・インフラ整備等のハード面に関すること】

- ① 道の駅の誘致を提案されているが、中心市街地にして欲しいという意味か、赤穂市内に以前からできればという話に関連してのどちらの意味か。また、道の駅ができれば、商店街の中から出品することは可能なのか。以前調査した際には、JA側から赤穂では毎日出品するだけの量を確保できないという返答があり、当時の市長も道の駅建設に乗り気になれなかった経緯もある。道の駅が設置されれば、もっと商品を作ろうとか農家をしようという意見もあり、どちらが先か難しい。
- ② 「短期では、今あるものをうまく利用する方法を考えなければならぬと思う(パーキングなど)」という意見があるが、具体的にはどういったことか。
- ③ 主婦の店の付近の「ふれあい駐車場」には、通勤に使っている人が10台くらい停めている問題がある。買い物や食事に使えない問題があり、有料化しないといけないのではという意見もある。ただし、民間で有料化するには設置費用の割に利益が出ないので設置できないでいる。一つだけ有料にすると別の所に集まってしまう可能性もある。民間で維持できないのであれば、全ての駐車場を有料化して市が管理できないかと提案中である。どこの駐車場も全て無料というのは時代に即さないのではないか。
- ④ 高取峠のトンネルの件は難しい。赤穂市の熱と相生市の熱は違うと感じている。歴史的な背景があり、長年取り組んできた高取峠のトンネル化を断念することは市としてはできないという意見もあるのではないか。県側の提案の現道改良を行うことが、自分たちの代としては精一杯ではないかという気持ちもある。
- ⑤ 県民局からは、高取峠の件は、竜泉那波線が完成しないと高取峠の話にはならないと聞いたことがある。JRを越える箇所があるが、その部分の事業進捗が予定よりも遅れそうだ。4車線化の計画案については、土地の買収の問題などで事業化は困難だ。

【その他】

- ① 癒しロボットは各商店街で買えるのか。
- ② サイクリングに関しては佐用町や上郡町といった千種川沿いの町や備前市では既にサイクリストをお出迎えする文化が進められているが、ちょうど中間の赤穂の整備が遅れ狭間になっている。まちの中でサイクリングで立ち寄れたり、故障があったときに自転車屋さんがレスキューできるといった仕組みが必要になる。サイクリングは60kmぐらいの広域を移動するので、広域の繋がりを他の市町でも望んでいる。しまなみ街道の整備状況も視察したが、ブルーラインのインフラ整備、安全運転の普及、サイクルスタンドの設置などを進めている。子どもの自転車安全対策をトレンドとして県が進め、車の運転マナーを向上させる取組みも成功している。SDGsの取組みとしても、17項目中11項目を満たしているので、自転車事業に取り組むのは県と市が連携する意味で理にかなっている。島民に自分の島のサイクリングロードと立ち寄りスポットを発掘してもらうことが大事なポイントである。サイクルオアシスを情報としてMap化することで、自分たちの街を把握し、サイクリストに対してはどういったサポートが得られるという目安になるので、取組みの始めとしては良いかもしれない。
- ③ 今度、細野町に24時間営業の大型店の出店計画があるが、商人会の皆さんへの影響をどう考えているのか。